

Profile

エリック・ミヤシロさん

1963年、アメリカ・ハワイ州生まれのトランペット奏者。高校卒業後、パークリー音楽院に入学し、在学中からミュージシャンとして活躍。1989年に来日以来27年。1995年には日本の一流演奏家を集めて、自身のビッグバンド「EMバンド」を結成。日本中で演奏会を行い、2000年にはファーストアルバム「Kick Up」をリリース。著名なアーティストたちからの信頼も厚い。10年程前から世田谷在住



エリックさん愛用のピッコロトランペット、トランペット、フリューゲンホルン（右から）。多いときには50本ものトランペットを所有し、使い分けていたこともあるそう。エリック・ミヤシロモデルのトランペットもある

になり、癒やしを感じてくれたらいいなと、そんな思いで演奏しているんです。よくライブ会場で、盛り上がってるかい!?と観客に聞いたりする場面があるでしょ。僕は、それは違うんじゃないかなと思ってる。盛り上げなくてはならないのは、演奏する自分たちだよ（笑）。エリックさんはその日の聴き手の反応によつて曲を変えるのだそうで、「聴き手がどう感じ受け止めてくれるかが大切。自己満足の演奏はプロとはいえない」ときつぱり。

吹奏楽やジャズの演奏会では、一番の盛り上がり部分をトランペットの直線的で力強い音が鳴り響いて：そんなイメージから、さぞ肺活量が必要かと聞いてみると、「トランペットでは唇が第2の楽器といわれるぐらい大切で、肺活量は関係ありません。少ない息を効率的に使って吹くことが大事」。さらに、「若い時にはパワーとテクニクだけでどうにかしようと思いがちですが、年齢とともにその人生経験が音に味と深みを与えてくれると思います。だから僕は変化し、柔軟さを失わないよう心掛けています」。そしてこんなエピソードを話してくれました。「ず

# 年齢を重ねた人生経験が 音に味と深みを与える

いぶん前のことですが、僕の演奏を聴いてくださった70代の方から、トランペットを習いたいという問い合わせがありました。その方は幼い頃、戦地に兵隊を送り出す時の音楽隊でラッパを吹かれていたそうで、戦後はそんな思い出を封印してきたそうです。好きな曲を一生懸命練習して、上達の速度は遅かったけれど、いろいろな思い出がよみがえって楽しかったよ、習いにきて良かったと言ってくれた笑顔がすてきでした。僕はその方に会って、何歳だからできないとか、やらないとか、自分の可能性に蓋をしてはいけないと教わった気がしました。

良い音楽、良い音を追求し続けるエリックさん、今後の目標は？「被災地での演奏も継続していきたいですし、機会があれば小中学生の吹奏楽の指導もしたい」。そして、

## インタビューを終えて

エリックさんのお話を聞いているうちに、何としても生の演奏を聞いてみたい、ビッグバンドの圧巻のパフォーマンスを見たいと強く思いました。きっとTVやCDでは感じられないくらいの衝撃を受けるのではないのでしょうか。世田谷にはたくさんのミュージシャンのお仲間が住んでいらっしゃるの事でしたので、SETAGAYAビッグバンドができればステキですね。ぜひ世田谷で演奏会をしてほしいです。（幡本）

